

全史協四国通信

令和7年度



令和8年3月 初めての記念誌が完成しました

「全国史跡整備市町村協議会 四国地区協議会」とは？

全国史跡整備市町村協議会及び四国地区協議会の目的に賛同し、文化財が所在する四国の市町村をもって、平成8（1996）年8月に結成された団体です。

加盟市町村が協調し、文化財の保護に関する調査研究やその具体的方策の推進を図りながら文化財の保存活用に資することを目的に、文化財の保存整備や公開活用が円滑かつ適切に行われるよう、文化財に関する情報交換、補助事業、国への予算要望の取りまとめや陳情等の活動を行っています。

1. 令和7年度事業報告

① 総 会

- 日 時 令和7年8月27日（水）13:00～13:30
○会 場 玉藻公園披雲閣「蘇鉄の間」
○来 賓 文化庁文化資源活用課 岩井 浩介 文化財調査官
香川県教育委員会生涯学習・文化財課 竹内 裕貴 文化財専門員

○議 事

- 議案第1号 令和6年度事業報告、決算報告及び決算監査報告
議案第2号 令和7年度事業計画案及び予算案
議案第3号 役員の選任及び任期について
議案第4号 規約の改定について
議案第5号 四国地区協議会記念大会及び
令和8年度（第31回）総会の開催について



② 記念講演及び事例報告

- 日 時 令和7年8月27日（水）13:45～15:30
○会 場 玉藻公園披雲閣「蘇鉄の間」
○内 容
記念講演 文化庁文化資源活用課 岩井 浩介 文化財調査官
「近世城郭の保存と活用 — 「お城」整備の特性と留意点 —」
事例報告 高松市創造都市推進局文化・観光・スポーツ部文化財課 高上 拓 調査係長
「城郭整備の具体相 — 史跡高松城跡における整備の現状 —」

③ 視察研修

- 日 時 令和7年8月27日（水）15:45～16:45
○場 所 玉藻公園

④ 全史協臨時大会出席及び文化財関係予算確保のための陳情行動

- 日 時 令和7年11月14日（金）8:30～16:00
○場 所 ホテルニューオータニ ザ・メイン「芙蓉」他
○陳 情 先 四国四県の関係国会議員 27名



⑤ 各種補助金

○研修派遣補助金

- ・奈良文化財研究所 令和7年度文化財担当者専門研修…高松市、徳島市、西条市
- ・令和7年度文化財保存活用地域計画研修会（静岡市）…高知市、南国市

⑥ 会誌の発行

「全史協四国通信 令和7年度（第15号）」

「全国史跡整備市町村協議会四国地区協議会30周年記念誌 四国遺産」※ 配布は令和8年度

◎ 全国史跡整備市町村協議会四国地区協議会 加盟市町（13市6町）

〔徳島県〕 徳島市、阿波市、美馬市、石井町、藍住町 〔香川県〕 高松市、丸亀市

〔愛媛県〕 松山市、今治市、宇和島市、西条市、大洲市、西予市、松前町、松野町、鬼北町、愛南町

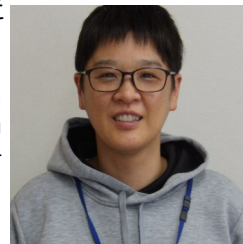
〔高知県〕 高知市、南国市

2. 研修派遣補助事業 実施報告

★文化財保存活用地域計画研修会（令和7年10月21日～10月24日）

南国市教育委員会生涯学習課 岡上 萌子

南国市は、高知県の中央部に位置しており、古くから「土佐のまほろば」と称されてきた豊かな自然が残る地域です。県下最古の寺院跡である比江廃寺塔跡や長宗我部一族の寺跡、前浜掩体群やトーチカを含む戦争遺跡等古代から近現代まで多種多様な文化財が残されています。これまで当市には文化財を保存活用する具体的な計画が策定されておらず、その魅力を十分生かしきれていませんでした。今回は、これらを保存活用しつつ地域の魅力を発信するための文化財保存活用地域計画を策定する手法を学べる貴重な機会と考え研修に参加しました。



まずは研修に参加する際の事前課題で当市の現状把握に努めました。人口や主要産業、文化財等を把握し文字化することで改めて自分自身の理解の助けになりました。また文字化するだけでなく研修で実際に発表することで、南国市の魅力をどう伝えたいかを明確にすることができました。

研修では初日にすでに文化財保存活用地域計画策定済みの4市町からお話を伺い、策定の理由及びスケジュール、コンサルタントの有無、庁内・庁外組織との調整の仕方等多岐にわたり詳細に教えていただけて大変参考になりました。特に千葉県流山市の方が仰っていた「計画策定には多くの人との関わりが必要不可欠であり、いかにいい関係を築けるかで策定のスムーズさが違う」の言葉に感銘を受けました。策定の内容や流れと同じく人との関係性作りの重要性を実感しました。

実地演習では研修地である静岡県三島市の三島地区をモデルに、5班に分かれて実際の計画策定を行いました。フィールドワークや郷土資料館で収集した情報を基に文化財保存活用に関する現状、課題を把握し方針を決定し、決定した方針を基に措置を講じる流れを演習することで、実際の策定項目や内容を落とし込むことができました。同じ地区をモデルに計画策定をしても班ごとに着目点や発想が異なっており、研修を通して新たな発想に触れて大変刺激になりました。今年度から「文化財保存活用地域計画作成のためのハンドブック」が導入され、こちらを参照することで疑問点は解決できましたし、項目ごとに記載例も掲載されており見た目にも非常にわかりやすく、今後の計画策定の際にも活用していきたいと思えます。

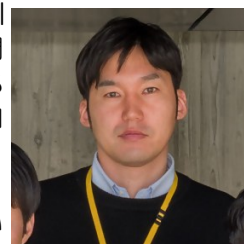
研修のまとめとして、文化財保存活用地域計画は市民に向けて策定する意識を持つ、という文化庁の方の言葉が胸に残りました。計画策定は行政が中心となって行うけれどもワークショップやパブリックコメントの募集など、市民を上手に巻き込むことが大事であると感じました。行政市民と一緒に地域らしさを一緒に考え文化財を通してその魅力を発信していける計画を策定していきたいと思えます。

★文化財担当者専門研修「災害痕跡調査課程」（令和8年2月17日～2月20日）

高松市創造都市推進局 文化・観光・スポーツ部

文化財課 梶原 慎司

高松市は、四国北東部の香川県中央部に位置し、市域の大部分は讃岐山脈から流れ出る河川が運搬した土砂によって形成された沖積平野です。私は業務として、開発に伴う試掘・発掘調査や、史跡等の確認調査を担当しています。市内の発掘調査では災害痕跡が確認される事例もあることから、その調査方法や活用のあり方について理解を深めたいと考え、本研修への参加を希望しました。



今回の研修では、地震時の地盤挙動や液状化のメカニズムなど土木工学的な視点を踏まえつつ、発掘調査で確認される噴砂やイベント堆積物、断層などの災害痕跡の見方や解釈について体系的に学ぶことができました。土層観察においては、指摘を受ければ理解できる事象であっても、現場で単独に見出し適切に判断することは容易ではないことを実感しました。安易な断定や恣意的な解釈を避け、地質学的視点から複数の可能性を丁寧に検討する姿勢の重要性を改めて認識するとともに、疑問が生じた際に専門家と連携できる体制づくりの必要性も強く感じました。

また、歴史災害痕跡データベースの構築と活用の意義について理解を深めることができました。高松平野では、過去の大規模地震に伴う液状化痕跡が確認されており、これらを地域の地形・地質の成り立ちと関連づけて整理し、市民に分かりやすく発信することは南海トラフ地震に備えた防災意識の向上につながると考えます。一方で、情報公開にあたっては社会的影響への配慮も必要であるため、正確性と慎重さを両立させながら活用方法を検討したいと考えています。今回の研修で得た知見を高松市の発掘調査や普及啓発事業に還元し、文化財行政の立場から地域の防災意識向上に貢献していきたいと考えております。

最後になりましたが、本研修を実施していただいた奈良文化財研究所および講師の皆様をはじめ、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

★文化財保存活用地域計画研修会（令和7年10月21日～10月24日）

高知市文化観光スポーツ部民権・文化財課 村中 智早

本研修は、文化財保存活用地域計画作成にあたり必要な「文化財保存活用地域計画の作成に関する指針」や文化財の保存と活用に関する課題・方針・措置を設定するための基礎的知識を学ぶことを目的とし参加した。



研修では、まず、文化財保存活用地域計画とは何か、認定の基準、策定の体制とプロセス等についての講義を受けた。また、地域計画の策定・認定を受けることで、未指定文化財の価値の再発見や活用、歴史文化という視点で地域の魅力を向上させ、観光や教育に活かせる地域活性化のメリットや文化庁の補助金事業の活用が可能になり、さらに補助率の嵩上げや採択時の優先順位の考慮等の財政支援のメリットについての説明があった。

その後、地域計画作成済自治体（静岡市、流山市、上三川町、あま市）による事例発表があり、各市町の担当者から地域計画策定に係る経緯、体制、基本方針、認定後の新しい施策等の具体的な話を聞くことができた。

2日目には、地域計画作成に向けた講義があり、「指針」、「ハンドブック」、「認定申請に係る手続き等」の3つの資料を常に確認しながら作成すること、庁内の調整ルール（議会やパブリックコメント）を早期に確認すること、文化庁との連絡を密に行い内容のずれをなくしていくこと等の留意点の説明があった。その後、三島市の担当者より、三島市の特徴や実地演習で実際に地域計画を作成する「旧三島地域」の説明を受け、グループごとに2日間の地域計画の作成に取り掛かった。

作成に当たっては、まず、ガイドの説明を受けながらフィールドワークを行い、地域の文化財を拾い上げ、その後、市史や総合計画等の資料を参考に歴史文化の特性を見出した。そして、三島市の地域課題や見出した歴史文化を基に将来像を設定、将来像実現に向けた課題・方針・措置の計画立案を行い、関連文化財群や文化財保存活用区域の設定、設定した群、区域ごとの課題・方針・措置の計画立案を行った。

最終日には、グループごとに研修で作成した地域計画の発表を行ったが、様々な異なった視点からの課題・方針・措置の具体的な計画を学ぶことができた。また、今回の研修においては、理論と実務の両面から地域計画の作成プロセスを学ぶことができ有意義な経験となった。地域計画は単なる文化財の保存だけでなく、歴史資源をいかに経済や市民生活の誇りに結び付けるかという視点で考えることも重要だと感じた。

★文化財担当者専門研修「報告書編集基礎課程」（令和7年11月30日～令和7年12月5日）

徳島市教育委員会社会教育課 河田 哲弥

研修内容は①「報告書を作成することの意義や今後のあり方」、②「調査成果の文章化や読み手に伝えるためのレイアウトの工夫」、③「成果報告を見据えた発掘調査への取り組み方」、④「報告書の活用方法」、⑤「印刷の基礎知識とその活用方法」と5つにテーマが分かれていた。分野や視点が異なるものもあるが、それぞれのテーマが「文化財報告書」を核として密接に関わっている。



どの講義も今後の業務に活用できる実りある内容であったが、特に印象に残った講義は「成果報告を見据えた発掘調査への取り組み方」に関する講義であった。

この講義では埋蔵文化財の調査は破壊を伴うもので、発掘調査で得られる情報はその当時の状況のほんの一部に過ぎないという考えに基づき、遺跡の掘り方や当時の景観・自然環境を読み取るための手法などの説明があった。基本層序を最初に確認することの重要性など、基礎的な話もあったが、溝の堆積層についてセクションごとの対応関係を確認する方法、掘立柱建物の不確かさを示す事例紹介があった。こうした講義をうけ、目的に合わせ調査方法を工夫して現場で検証することの重要性、層序の対応関係が時代ごとの景観復元に大きく関係していることを改めて認識した。

また、発掘調査を行って得られた調査成果がまとめられて報告書となるが、報告書は終点ではなく一つの区切りで、報告書の情報をもとに史跡の整備や公開など文化財が活用される。報告書の活用に関する講義で、報告書から得られる情報を検討材料として史跡整備や普及啓発活動の事例紹介があり、良い報告書が無ければ活用が難しい作業になってしまうと話があった。つまり、良い現場でなければ、より良い活用が難しくなることも捉えられる。

私自身は、これまで現場・報告書・活用の3つを区切って考えていたが、調査で得られる情報が多ければ、より良い報告書ができ、良い報告書があれば活用しやすくなるという思考を持つことで、文化財の保護と活用がより良いものになると感じた。

以上、研修の内容をまとめたが、当初目的としていた内容以外にも新たな発見や考えを改めさせられる機会が多くあり、非常に有意義なものであった。

★文化財担当者専門研修「土器・陶磁器調査課程」（令和7年10月6日～10月10日）

西条市教育委員会社会教育課 岡島 俊也

今回の研修には、実物資料（土器）をよく観察する、須恵器の成形技法の実演をよく観察する、講師や研修生との交流を図り、人脈を持ち帰るといった目的があり、それぞれを達成できたと思う。

実物資料をよく観察するという点については、各講師に共通することであり、今回の研修では、これまでにないほどの量の都城の土器・陶磁器を見ることができ、非常に有意義なものとなった。研修を受講したことによって即実践できるわけではないが、土器をよく観察することはいつでもできることなので、今後実践していきたいと思う。

須恵器成形技法の実演や観察の視点は、これまで曖昧な理解であったが、改めて見聞きすることで頭の中の整理ができた。また、ロクロで成形された製品に捻れ皺ができることを初めて知り、実演されたものにもその痕跡が残っていることに大変驚いた。さらに、講師から成形技法の実演もあれが正解ではなく、ああいった作り方があるということを確認してくれたらよいという言葉もあり、固定観念に縛られることなく土器を観察する必要性を感じた。

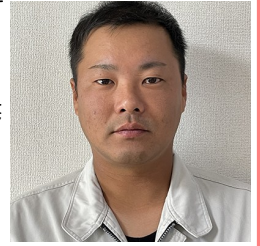
人脈では、すべての受講生と話をすることはできなかったが、限りある時間で様々な話をするのができ、情報なども共有するようになった。

今回の研修では、大きく下記の2点の課題を持って研修を受講した。

①現在、実施しているほ場整備に伴う発掘調査で出土する古代～中世の土器の年代や産地を把握し、遺跡の理解を深めるための視点を学ぶ。

②土器から古代山城永納山城跡やその周辺の古代遺跡を総合的に捉え、古代遺跡の動態に少しでも迫るための視点を学ぶ。

ほ場整備に伴う調査、永納山城跡やその周辺の古代遺跡では、地元で製作されていない土器・陶磁器も出土している。本研修においては、それらと似たような土器・陶磁器をいくつも見る事ができ、年代推定等の参考とすることができる。これらの内容は、概説書や報告書では学ぶことができないものも多々あったため、資料や写真、動画を見直ししながら、一つ一つ頭の中を整理したい。また、この内容を他の担当職員とも共有・実践し、今後の調査や整理に活かしていきたいと思う。



～設立30周年記念大会のお知らせ～

【記念大会】

日 時：令和8年8月19日（水）午後1時30分～

場 所：松山市民会館中ホール（愛媛県松山市堀之内）

内 容：城郭考古学者の千田 嘉博 氏の講演

参加者：全史協四国地区協議会、全史協愛媛県支部、一般市民（抽選）

【視察研修】

日 時：1日目：令和8年8月19日（水）午後4時～

2日目：令和8年8月20日（木）午前8時30分～

場 所：1日目：松山城跡 2日目：愛媛県伊予市、砥部町

参加者：全史協四国地区協議会、全史協愛媛県支部

【情報交換会】

日 時：令和8年8月19日（水）午後7時～

場 所：えひめ共済会館（愛媛県松山市三番町5丁目）



松山城 野原櫓

全史協四国通信 令和7年度
-全国史跡整備市町村協議会四国地区協議会 会誌-

発行年月日 2026（令和8）年3月17日

編集・発行 全史協四国地区協議会事務局

〒790-0003 愛媛県松山市三番町六丁目6番地1

松山市教育委員会文化財課内

TEL：(089) 948-6605

Email：kybunka@city.matsuyama.ehime.jp